

平成29年度 寄附講座にかかる評価報告

寄附講座は本学が自主性、主体性を持ちながら、研究・診療・教育の活動を行っている一方で、学外の第三者からの寄附金を財源としていることから、講座運営の透明性や研究活動の実績、成果を求められております。

このことから、活動報告書や成果報告会において報告を受け、寄附者や外部有識者で構成する寄附講座アドバイザーなどにより、毎年各講座の活動に対して評価を行い、適切な講座運営が図れるよう取組みを進めております。

1 評価の概要

寄附講座にかかる評価は、各講座から提出された研究活動報告書・診療実績報告書・教育活動報告書（平成29年度から、新たに教育活動における評価を追加しました。）をもとに、寄附者や外部有識者で構成される寄附講座アドバイザーなどの評価を踏まえ、寄附講座評価会議において決定したものです。

(1) 評価者

①寄附者（23団体 ※辞退者を除く）

②寄附講座アドバイザー（6名）

公立大学法人会津大学 理事 岩瀬次郎 氏

公益財団法人福島県産業振興センター 理事長 鈴木清昭 氏

公立藤田総合病院 院長 堀川哲男 氏

福島県住宅生活協同組合 理事長 和合アヤ子 氏

福島県中小企業団体中央会 副会長兼専務理事 熊本俊博 氏

公益社団法人福島県看護協会 会長 今野静 氏

③学内評価者（3名）

医療研究推進戦略本部長、副本部長、医療研究推進センター医療産業連携部門長

(2) 評価の区分

講座の活動における計画に対する達成度合いに応じて以下の区分により行っております。

S：優れている・・・（計画の100%超）

A：評価できる、適切である（計画の80～100%程度）

B：やや改善を要する（計画の60～80%程度）

C：改善を要する（計画の60%未満）

2 評価結果

評価の結果、大半の講座の研究活動、診療実績、教育活動については、評価できる、適切であるとの評価をいただきました。特に論文数の少ない講座においては積極的に論文化に取り組むこと、また、各寄附者への報告を適切に行うこと等の助言がありました。

講座名	研究・診療	評価	主な意見
周産期・小児 地域医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療の実態と問題点が明確になるとともに、基幹病院の役割の重要性を再認識した ・診療支援を目的としており、研究内容は適切である ・産科が1名常勤医を置いた点が良い ・今後の計画も、当地方の地域医療を充実させるためには必要不可欠であり、さらなる成果を期待するとともに、継続した研究を望む ・須賀川地方の診療体制が維持できるよう一層の研究活動を期待 ・報告資料は実績の図表化だけでなく原因分析等にまで踏み込んで欲しい ・論文が望まれる ・更なる研究成果の発出を期待したい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寄附講座の研究活動に即した取り組みがなされており、須賀川市及び周辺地域における周産期・小児医療を充実させるために大きく貢献している ・須賀川地方の医療供給体制に多大な貢献をしている ・地域のニーズに応えている ・今後の計画も、当地方の地域医療を充実させるためには必要不可欠であり、継続した診療活動を望む ・福島病院の体制縮小は極めて残念であり、長期的な診療支援が必須である ・引き続き、現状に応じた計画修正を行い、地域に対する貢献の継続を期待する
地域救急 医療支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待どおりの研究成果を上げている ・活発な学会発表がなされている ・データ整理がなされている ・これまでどおり連絡や情報提供等を希望する ・学会発表の内容とマラソン大会での活動を関連づけた報告になればわかりやすい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待どおりの成果を上げている ・福島市内病院に対する救急支援当直により救急医療体制の充実に大きく貢献している ・応援体制がなされている ・引き続き、現状に応じた計画修正を行い、地域に対する貢献の継続を期待する
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・救急の標準化教育の成果に期待している ・中学生に対する講習会を24校で実施していることは評価に加えた ・症例検討会・講習会もなされている ・中学生に対するBLS講習会はすばらしい ・積極的に取り組んでおり、今後の成果に期待したい

地域産婦人科 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果はもとより、当地域の産婦人科医療体制の充実に大きく貢献いただいている点においても、高く評価できる ・地域医療を行いながら研究する努力をしている ・今後においても、研究の継続を是非お願いしたい ・研究成果については学会発表等積極的に情報発信してほしい ・今後のデータ解析、研究成果の発出を強く期待したい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いわき地域における産科医療施設が減少している中で、いわき市立総合磐城共立病院が最後の砦となっており、地域の産婦人科医療体制の充実に大きく貢献いただいていることから、高く評価できる ・いわき地域の産科診療体制の維持に極めて大きな役割を果たしている ・地域のニーズに応えている ・今後についても、是非継続をお願いしたい ・医師確保に向けての取り組みを期待 ・今後の経時的変化を期待する ・継続した診療活動を望む ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育成果はもとより、当地域の産婦人科医療体制の充実に大きく貢献いただいている点においても、高く評価できる ・性感染症の啓発に積極的に取り組んでおり成果に期待したい ・性感染症キャンペーンは他の模範である ・性に関する若者への教育はすばらしい ・今後においても、教育活動の継続を是非お願いしたい ・残念ながらいわきの性感染症は多い。益々の活躍を期待している
白河総合診療 アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究は着実に進捗し近い将来大きな成果として結実することが期待される ・研究成果については積極的に学会発表、学術論文文化を行っている ・卓越している ・地域医療の場で英文論文を出すのはすばらしい ・地域医療の鏡である ・対外発信により研修医確保に多大な貢献をすることを期待している ・今後の解析、更なる研究成果の発出を期待したい
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・特に高齢者医療や診断困難例の引き受けなど積極的な姿勢は高く評価される ・診療実績の向上と医師確保の好循環となっており、地域医療の充実に多大な貢献をしている ・確実に診療実績が上がっている ・白河の地域医療を支えている ・総合診療医の育成においても大きな成果を上げている ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に対する姿勢は病院全体をリードしていると言える ・事後アンケートの実施について特に評価したい ・研修医への教育もしっかりなされている ・医師を育てる努力は高く評価されている ・今後の成果に期待したい ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する ・病院内での勉強会の実績等、簡単に結構なので”見える化”してほしい
東白川整形外科 アカデミー	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・診療支援を目的としており研究内容も適切である ・学会発表もなされている ・少ないスタッフで良く活動されている ・地域の若い患者の整形外科的疾患の研究も大切と考えられる ・新たな研究テーマを探して研究開始することを期待する ・研究成果の発出を強く期待したい ・講座として教育または研究の活動が望まれる

東白川整形外科 アカデミー	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の必要度に適正な診療活動がされている ・期待どおりの診療活動がなされている ・順調に実績をあげている ・引き続き幅広い活動を期待する ・経時的変化考察を期待する ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・非専門医に対する講演会などを実施している ・近隣医師との勉強会もなされている ・地域で講演会を行っている点は評価できる ・若い医師の臨床経験が積める研究の場になることを願う ・今後の成果に期待したい ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
地域整形外科 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果はもとより、当地域の整形外科医療体制の充実に大きく貢献いただいている点においても、高く評価できる ・大学病院と同等レベルの四肢外傷治療を行い、治療成績を評価し、中間報告とは言え学会発表まで持ち込んだことは評価したい ・学会発表もなされ、順調に成果を上げている ・今後においても、研究の継続を是非お願いしたい ・最終報告に向けて成果を期待したい ・研究成果の発出を強く期待したい ・論文発表が出来るよう期待する
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・年間 500 件を超す手術に対応するなど、いわき地域の診療体制の向上に大きく貢献している ・診療実績が伸びている ・優れた診療実績を上げている ・今後においても、継続を是非お願いしたい ・必要な医師の確保によって一層の成果を期待する ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育成果はもとより、当地域の整形外科医療体制の充実に大きく貢献いただいている点においても、高く評価できる ・地域における講演会のほか、医師や作業療法士に対する講演などに取り組んでいる ・リハビリスタッフへの勉強会もなされている ・医師確保の活動についても期待。 ・今後は研修医や学生向けの教育も担っていただけるとありがたい
疼痛医学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待以上の研究成果を上げている ・ペインマネジメントプログラムについては既に 10 例以上に施行し、結果を学会や論文で公表している ・論文も多数である ・確実に実績を上げている ・さらに症例を積み重ねより良いプログラムとして完成させ普及することを期待する
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりに進んでいる ・「慢性疼痛センター」の認知度が上がり県外からの紹介患者も増えている ・多職種連携の進捗が認められる ・今後も状況に応じて研究計画を見直ししながら進めて頂きたい ・一層の症例の積み重ねにより完成度を高め成果を情報発信しながら医師の確保にも繋げたい ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
スポーツ 医学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの学会発表を行っており、さらに論文化へ繋げていくことを期待する ・着実にデータ集積と論文作成が行われている ・確実に成果が上げられ論文として公表されている ・更なる研究成果の発出を期待したい

スポーツ 医学講座	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ外来として医科大学と南東北病院で 1500 名の診療にあたった ・外来数が伸びていてニーズに対応している ・スポーツ外来の開設 ・成果についての情報発信をしながら診療体制構築に繋げていくことを期待 ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する。
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・卓越している ・評価できる ・市民やスポーツ指導者に教育を行っている ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する ・今後の一層の成果を期待する
消化器内視鏡 先端医療 支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・機器開発から治療法の開発など先進的な研究に取り組んでおり、成果が期待される ・論文多数であり優れている ・トレーニングキットを開発した ・今後の研究成果を充実させていくことを期待する ・県内企業や医療機器開発支援センターとの連携がさらに進むことを期待する
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医科大学と南東北病院で 3580 件の内視鏡治療を行うなど、内視鏡医の育成を含め成果を上げている ・症例数も多く適切に展開されている ・今後も先端医療の実績を上げるなど診療のレベルアップと内視鏡医育成に期待 ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する。
外傷学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース構築し、データ解析し、病理所見と合わせた分析を行っている ・成果報告も多く妥当である ・診療実績が増加し、学会発表も行われている ・英文論文を期待したい ・更なる研究成果の発出を期待したい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・手術件数 733 件、また外来入院とも多数の診療実績を上げている ・手術件数も多く妥当である ・確実に実績を伸ばしている ・新たな治療成績評価法、診断法の確立を期待 ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外傷セミナーは 3 日間の日程で 54 名の医師に対して行われており、外傷治療の普及という点で成果が上がったものと思われる ・セミナー開催など展開されている ・メディカルスタッフの教育が行われている ・研修医への指導において一層の成果を期待する
外傷再建学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画、目標に沿った研究活動が展開され、対外的にもその存在感が認められるようになっている ・学会発表の増に加え、メディカルスタッフによる論文発表も行われている ・学会発表も増加傾向ですばらしい ・「外傷再建センター」としての一層の情報発信を期待 ・論文を増やしたい ・研究成果の発出を強く期待したい。
	診療	S	<ul style="list-style-type: none"> ・年を追う毎に、診療実績数が確実に増えてきており、期待通りの活動が展開されていると認められる ・手術件数、他病院からの紹介件数ともに大幅に増加しており、着実に実績が上がっている ・必要な手術器械の購入により一層の成果が上がることを期待 ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する。

外傷再建学講座	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・目的としている教育活動が功を奏し、医師を獲得するなど、期待どおりの活動が展開されている ・医師、メディカルスタッフの育成に向け、定例のカンファレンスを行っており、学会発表も行っている ・他職種への教育も行っており、順調に展開され、評価できる ・卓越した教育活動である ・医師確保においても成果があがることを期待
多発性硬化症治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国際レベルの先進的な研究活動を行っている ・成果報告論文も多く適切に進んでいる ・寄附者からの評価を求める ・更なる研究成果の発出を期待したい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・西日本を含めた広域の診療ニーズに応えてきた ・国内に展開されていて適切に進んでいる ・他科、他病院と連携して診療にあたっている ・有効な治療につながる診療活動を期待 ・引き続き、地域に対する貢献の継続を期待する
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・患者や家族などに対して平易な解説を行い、疾患の認知や最新の情報を伝えた ・学生、家族まで展開され妥当である ・診療ガイドライン作成は特記される ・様々な教育セミナーにも参加している ・今後の一層の成果を期待
災害医療支援講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・住民ニーズや受療動向に関するデータの収集、分析を通して、診療体制の構築に成果を上げている ・適切に展開されている ・論文等もあり、認められる ・今後も被災地域の診療体制の維持に貢献するよう期待 ・更なる研究成果の発出を期待したい
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・期待どおりの診療活動が行われており、延べ診療日数は2152日にのぼっている ・15名の医師で被災地域の医療を支えている ・引き続き復興において貢献するよう成果を期待する ・診療科別患者動向データが望まれる

肺高血圧先進医療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の患者分布を把握し肺高血圧症合併原因となる予測因子を見出している ・講座の更新決定など着実な進捗 ・肺高血圧症研究に新しい知見を見出している ・順調に計画が進行している ・データベース化により、より詳細な分析がされることを期待 ・「肺高血圧診療実態把握とデータベース化」がどの程度なされたか、実績についての詳細報告がほしい ・計画のテーマの一つであるデータベース化の具体化に向け進めていただきたい。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> ・着実な診療実績 ・会津地区への専門外来設置にも期待する ・希少疾患に対し、目的に沿った診療活動が展開され、成果を上げていると認められる ・計画的に診療医療機関数を増やす取り組みを行っていることは評価できる ・県内全体に成果を提供している ・順調に患者さんが発見され、研究、診療が進んでいる ・疾患の予後改善に対する診療活動の成果を期待する ・研究部門と連動したデータベース化を進めていただきたい

<p>生活習慣病・慢性腎臓病 (CKD) 病態治療学講座</p>	<p>研究</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの論文、学会報告に加え、福島県の連携システムが日本のモデルケースになりつつある ・価値ある成果を上げている ・素晴らしい研究成果を上げられている ・要因解析は進行しているが、それ以外にも広げるべき ・研究成果を踏まえ福島市の CKD 予防連携モデルの構築、公的研究・学会での参画など広範囲に実績を上げている ・「福島県糖尿病腎症重症化予防プログラム」の策定等に係り、大きな成果となっている。また連携システムが構築され拡大していることは素晴らしい ・研究の仕組み・システム及び市民啓発のための他団体との連携体制は安定している ・逐次、介入していかないと解決は難しい。CKD 発症率は低下したのか？ ・寄附者 1 社の、新たなバイオマーカーなど専門的な指摘を踏まえた評価 B への対処をすべき ・今後、予防プログラムや連携システムの効果を期待する ・さらなる発展を期待
<p>生体機能イメージング講座</p>	<p>研究</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新研究所の開設遅れも南東北病院 PET 施設を代替として研究を継続し実績を積んでいる ・日本のトップリーダーとして実績をあげている ・1歩1歩進んでいる ・H30 年 9 月までの 3 年間の計画として「PET プローブライブラリ構築した PET 診断法、創薬支援」が当初の目的であるが、NaF 承認、4DST 応用などの研究により、このライブラリモデルがどこまで進捗しているかが不明確 ・新たな施設での成果を期待する ・更なる研究成果の発出を期待したい
<p>医療エレクトロニクス研究講座</p>	<p>研究</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オキシトシンの研究論文掲載など特定研究での実績は上がっている模様 ・研究計画に沿った成果を上げている ・当初の寄附講座の設置目的である「非侵襲型生体センサーを利用した医療機器技術の研究」「ネットワーク技術を組み合わせた医療システム技術の研究」、「臨床研究、試験」の進捗記述が無い ・寄附講座を特定研究に特化するのであればその旨を明確にすべき ・今後の研究計画がより具体的であると良いと思われる ・より詳細な研究計画が必要である ・更なる研究成果の発出を期待したい
<p>不整脈病態制御医学講座</p>	<p>研究</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不整脈治療における革新的医療や研究が計画以上であると考える ・心房アブレーション、粘膜障害、心室間インピーダンス解明、被爆線量提言など着実な実績 ・H30 年度計画も明確 ・新たなテーマでも成果を上げている ・臨床に応用できる研究を行っている ・新講座も含め、今後の更なる当分野での研究が期待される ・更なる研究成果の発出を期待したい。
	<p>診療</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・期待以上である ・寄付目的に沿った診療活動であり、成果を上げていると認められる ・デバイス植え込み (119 件)、カテーテルアブレーション (255 件) など昨年度に続き多くの診療実績を上げている ・数多くの患者さんの診療が行われている
	<p>教育</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部生に対する教育も定期的に実施 ・今後計画される一般市民向け公開講座等については、「教育」分野よりも「診療」分野として管理する方が適切と考える ・継続した質の高い教育活動を期待したい ・大学院生や研修医に対する教育も報告書にまとめていただけると更に評価しやすい

心臓病先進治療学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究成果が計画に沿って着実に出ている。(論文数:前年比約1.8倍、学会発表等:前年比1.14倍) 睡眠呼吸障害の研究では着実な成果 論文数(16件)も多い 前年度を超える論文数と学会発表となっており、研究の成果が出ている 活発に研究が進められていて素晴らしい 心疾患領域におけるSAS診療の普及ならびに、包括的な生活習慣病管理、多面的な心不全診療に関する研究に期待する 生活習慣病管理へとつながる研究成果を期待する 今後の年次計画のテーマをより具体化し、成果を上げていただきたい 他の研究助成にも繋げていただきたい。
	診療	A	<ul style="list-style-type: none"> 診療回数の増加など着実 診療体制を強化し、診療の実績が上がっている 今後も情報共有しながら計画に沿って診療を進めて頂きたい 住民への普及啓発の強化による検査件数の増加に努めていただきたい 更なる発展性のある診療成果を期待したい。
腸内環境病態医療学講座	研究	C	<ul style="list-style-type: none"> 講演会実績などから実績は上がっている模様 寄附目的に沿って概ね適正な研究活動が展開されている 今後定期的に計画、進捗状況の報告を求めたい 研究活動報告書には研究活動実績の記載がほぼ無く、論文についても2件、寄附者評価が低い(C)など報告自体に改善要 今後、具体的な研究計画に基づいた研究活動を期待する 寄附者とのコミュニケーション不足による認識のズレを埋めることが必要と思われる 研究計画を寄附者と相談されたい 更なる研究成果の発出を強く期待したい。また、寄附者が納得できる報告を行う必要がある。
	診療	C	<ul style="list-style-type: none"> 着実な診療実績 寄附者とのコミュニケーション不足による認識のズレを埋めることが必要と思われる 更なる発展性のある診療成果を期待したい 寄附者と連絡を充分にしていきたい
	教育	A	<ul style="list-style-type: none"> フォーラム等での講演など着実 寄附目的に沿った適切な教育活動が展開されており、期待通りの研究成果を上げているものとする 講演会以外にも内容をさらに充実させていきたい 学部生、大学院生等を対象とした教育活動も期待したい
プログレッシブDoHaD研究講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 寄附目的に沿って予定通り、適切に行われており、特に問題ない 胎児期からのデータプラットフォーム構築というチャレンジなテーマであり、スコープを拡大せず確実に進めてもらいたい 計画「収集するデータ項目と収集方法の検討」がどこまで進捗したのか成果が見えない 更なる研究成果の発出を期待したい
低侵襲腫瘍制御学講座	研究	A	<ul style="list-style-type: none"> 科研費採択、データ収集開始など初年度として着実な進捗 診療科横断での研究の初年度として無難なスタートであったと思われる 今後の体制拡充や年度目標達成に向け連携を強化し継続していただきたい 寄附目的に沿って概ね適正な研究活動が展開されている。今後も計画に沿って研究活動を展開されることを期待する 更なる研究成果の発出を強く期待したい 30年度以降は本格的な研究に入るので進捗管理をきちんとしてほしい

<p style="text-align: center;">先端癌 免疫治療学講座</p>	<p style="text-align: center;">研究</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・論文数も着実 ・28年度寄附講座を再編してのスタートであるが、学内関係講座及び他大学との交流連携も行われ、医療コンソーシアム形成に向け、計画に沿った活動が実施されている ・今までどおり寄附者との密な連携を希望する ・研究活動報告書の活動内容報告が「論文、学会発表の資料を参照」とあるが報告書の意味を鑑み、適切に記載してもらいたい ・これまでのように報告等の情報提供を希望する ・更なる研究成果の発出を期待したい
<p style="text-align: center;">神経再生 医療講座</p>	<p style="text-align: center;">研究</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幹細胞移植治療の承認と治療実施など着実な進捗 ・更なる研究成果の発出を期待したい
	<p style="text-align: center;">診療</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座開設当初の目的に加え、現状に応じた適切な計画修正がされるなど、地域に対する貢献の姿勢が窺える ・再生医療の研究にとどまらず、会津地区への神経内科診療の提供など地域医療に貢献するよう計画を変更し、実績を上げている ・地域の医療機関との連携をとり、神経内科専門医の不足をカバーした診療活動が行われた ・寄附者の目的が達成されていることは理解できるが、可能な範囲での$\pm\alpha$の計画目標も考慮していただければと思う ・診療の患者数を具体的に記載していただきたい ・引き続き、現状に応じた計画修正を行い、地域に対する貢献の継続を期待する

3 評価に対する講座の対応

評価会議等で出された助言等を活動に生かすため、各講座に対して評価をフィードバックしております。各講座よりあげられた助言等に対する主な対応策は以下のとおりです。

<周産期・小児>

報告資料については、原因分析に踏み込めるように努力します。また、これまでの周産期体制の変化について論文作成を検討します。

定期的な診療支援に加えて、常勤医の増員など長期的な心労支援について検討していきます。小児科及び産婦人科医師の育成のための地域密着型後期研修プログラムについて検討します。また、年度末には報告書の作成を行いたいと思います。

<地域救急>

本講座の寄附者である福島市には今後、進捗状況や成果を積極的に報告する予定です。

二次輪番における救急教育の充実のため今年度もより積極的に活動する予定です。

＜地域産婦人科＞

研究成果を学会等で発表できるよう努力します。また、この研究以外では論文等は執筆しておりますので、次回報告いたします。

今後も同様に連携を図りながら、いわきの産婦人科医療向上にまい進してまいります。

＜白河総合診療＞

これからも臨床現場の研究・クエスチョンを基にした臨床研究を推進したい。初期研修医は4年連続フルマッチの見込みである。一方、後期研修医については初期研修医からの志望者が増えるよう努力していきたい。

2018年度末に最初の家庭医療専門医プログラム（後期研修医）の卒業生を輩出する予定であり、白河初の家庭医療専門医に向けてサポートする。またシニアレジデントからそのまま教員に昇格した医師も出てきており、白河での診療・教育・研究の実績が総合診療医の育成として結実しつつある。

アカデミーで関わっている各種活動について、実績を文書化する。

＜東白川整形外科＞

現在は、研究活動を福島医大にて行っております。今後は、塙厚生病院内でもできる研究を考案し実施できるよう計画していきたいと思っております。

＜地域整形外科＞

最終年度までに、これまでの先進治療の治療成績を論文化します。

講座構成員の実質的な増加に伴い、手術件数もさらに増加しています。今後も地域医療に貢献していきます。

福島医大の学生への講義、研修医への勉強会も施行しております。これまでの四肢外傷治療成績を論文化致します。

＜疼痛医学＞

寄付者に定期的に報告し、成果について知っていただく努力をしていきたい。

引き続き、計画に沿って慢性痛診療の確立に努めていきたい。

＜スポーツ医学＞

論文作成の努力を継続いたします。

スポーツ外来を継続し、地域に貢献できるよう努力します。

<消化器内視鏡>

今後も、医療機器の開発を進めていきたい。また、福島県では内視鏡医が不足しているので、人材育成に努めていきたい。

今後も2病院での内視鏡医の育成のみならず、県内でいろいろな研究会を介して福島県の内視鏡診療のレベルアップを図りたい。また、2病院での内視鏡診療および外来診療においても患者さんのために継続していきたい。

<外傷学>

現在、英文論文を1編投稿中です。

PET-CT を用いた骨髄炎の新しい評価法がほぼ確立しました。英文論文を準備中です。

<外傷再建>

データが蓄積されたので、発表のみならず論文としてアピールをしていく。

手術機器の購入申請をして参ります。

地域内での情報発信を考えていきます。

<多発性硬化症>

今後とも国内外で幅広く研究活動を継続していく。寄附者に助言を求め研究成果をあげるよう努力する。

今後は、大阪難波を拠点に西日本の患者ニーズにも入り一層対応していく予定である。県内外での診療活動をより強化していく。

学内の学生講義に加えて、各種研修会等を通して教育にさらに注力していく。より一層の努力をし全国の地域に貢献していく。

<肺高血圧>

患者データの集計等は、2018年度報告会の際ご紹介する予定です。

引き続き研究結果の応用や、更なる肺高血圧症の疾患概念の啓蒙と予後改善に努めます。

<生活習慣病>

多くの寄附者からのご支援をいただいておりますが、上述のとおり、一部の寄附者の個別のご興味に対してもコミュニケーションを図りつつご要望をふまえ可能な限り対応したいと思っております。定期報告は年1回が適切であると考えており、今後とも確実に実施いたします。

<生体機能>

本講座は医師でない研究者で構成されており、寄附者である医療機関等の医師と共同して臨床研究を進めることが基本になっている。陽子線治療への DNA 合成評価薬剤 4DST の応用や、外部機関からのメチオニン PET による骨髄腫診断や BNCT 応用への FBPA PET 診断など依頼も増えてきた。院内だけでなく地域連携も図っていきたい。

<医療エレクトロ>

センサーなど医療技術に関する報告は今後の特許取得も含めて丁寧に報告させていただきます。

<不整脈>

今後さらに、研究結果を学会発表および論文として公表していきたいと思えます。

さらなる診療の発展・普及へ尽力して参ります。

御指摘の点を考慮し、引き続き教育活動に尽力して参ります。

<心臓病>

本年度は、生活習慣病の中でも、特に睡眠呼吸障害と高血圧に関する部分に取り組んで参ります。

さらなる診療の普及へ尽力して参ります。

<腸内環境>

研究活動報告書の記載漏れや寄附者とのコミュニケーション不足を是正して研究活動を大きく展開し、多くの論文発表等の成果を発信するよう努めます。

学部生、大学院生対象のセミナー・講演会などを企画し、充実した教育活動を行っていくよう努めます。

<プログレッシブ>

現在、臨床研究を準備しております。次回は、進捗についてご理解いただけるように留意いたします。

<低侵襲>

進捗管理に対して、事務職員の拡充を行い、臨床研究指針および臨床研究法の手順確認を強化していく。そのうえで、論文発表につなげていく。

<先端癌>

これまで通り積極的な講座活動と寄付者との緊密な連携を維持してまいります。

<神経再生>

会津中央病院での診療は、週3回の外来と病棟の患者のコンサルト行っている。一回の外来患者数は15例くらいである。さらに、重症患者の他院への紹介なども行っている。2018年度から、さらに週一回の外来を追加する予定である。